

都市再生整備計画

とうぶちいききょてんちく
東部地域拠点地区

いしかわけん わじまし
石川県 輪島市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	石川県	市町村名	わがまち 輪島市	地区名	とうぶちいききよてふちく 東部地域拠点地区	面積	52.0	ha
計画期間	令和7年度～令和11年度	交付期間	令和7年度～令和11年度					

目標 大目標：『もとよりもっと 新・輪島』～みんなでつなぐ復興まちづくり計画～ 目標1：被災者の生活再建 目標2：地域を支える生業の再興 目標3：新たなまちへの再生 ※輪島市復興まちづくり計画の実現に向けて、同計画と同じ目標設定を行う。
目標設定の根拠 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) 輪島市の復興まちづくり計画において、これまで都市計画マスタープランや立地適正化計画等において目指してきた都市構造を踏まえつつ、将来にわたり安全・安心で持続可能な都市の構築を目指し、「ゾーン」「都市拠点」「都市軸」からなる将来都市像を設定する。 ■基本的な考え方 ・輪島・門前・町野の市街地(拠点)は行政が中心となり住まいや日常生活に必要な機能等を確保。 ・各地区において安心して暮らせるよう、公民館を核としたコミュニティを再建。 ・各集落においても復旧を進め、現地再建を支援していくとともに、各家庭・地域での話し合いを通じて、災害リスクや孤立可能性の高いエリア等から拠点や安全な集落への移転を支援。(必要に応じて災害リスクの高い危険なエリアとして施設立地・建築規制を検討) ・復興まちづくりの中で、観光・産業の拠点施設や民間活力による官民複合施設の整備、市全域での生活再建における居住地等の集約など、都市機能の拡散防止と利便性確保を図る上で、市有地や民間所有の低未利用地の有効活用を見据える。 まちづくりの経緯及び現況 令和6年元日に輪島市を襲った「令和6年能登半島地震」及び令和6年9月に発生した「令和6年奥能登豪雨」の二重災害は、市全域に未曾有の壊滅的な被害をもたらした。この状況を克服するべく、これから復興に向けた新たな挑戦、「創造的復興」を始める。この創造的復興では、輪島塗、観光、農林漁業などの産業や、これまで培ってきた伝統や文化、景観など地域の財産を後世に継承するとともに、これまでできなかった新しい取組にも積極的に挑戦していくもの。 復興まちづくり計画において、震災をきっかけにこれまでに以上に魅力的で、豊かで、安心して暮らせるまちをどのように創っていくかについて、多様な選択肢を示しつつ市民の皆様の声を計画に反映する。発災以降の市民の皆様の様々な想いに耳を傾けながら、10年、20年先の未来を見据え、市民の皆様と共に、復興に向けてチャレンジし、震災前よりもっと魅力的で、安心して暮らせる輪島市を創りあげるべく取り組んでいる。 町野地区は、「五里分け橋」と名のつく橋も存在するように、古くから奥能登の主要都市である輪島や珠洲、宇出津とはそれぞれ五里の距離で結ばれる重要な位置で栄えてきた地域である。また、史跡顕著な文化財を多く蔵し、県内でも代表的な潮流である町野川流域に広大な平野と豊かな森林地帯、さらに曲折に富む海岸景勝地を併せ持った、文化的土壌と自然美を誇る住みよい里として開けてきた。 東部地域拠点地区(以下、「当地区」という。))は、輪島市東部の市街地ゾーン(地域拠点)である町野地区の中心部に位置し、一定の人口密度を維持し、行政機能や生活利便機能を備えた地域の拠点としての再構築を図るべき地区である。 ●経緯 2012年6月 輪島市都市計画マスタープラン策定 2022年3月 第2次輪島市総合計画(後期基本計画) 2024年1月 能登半島地震発災 2024年3月 輪島市立地適正化計画改定 2024年9月 奥能登豪雨発災 2025年2月 輪島市復興まちづくり計画策定 2025年3月 輪島市立地適正化計画改定
課題 ・災害による住まいの困窮や日常生活の変化、地域コミュニティの低下、子育て環境の低下や若年人口流出の加速化など、被災者の生活再建に向けて都市構造の再編と共に、基盤整備を含む復興事業の実施が、被災者の生活再建に向けた対応が必要である。 ・観光資源の被災や観光入込客数の減少、事業環境の低下や雇用の喪失、火災や家屋の解体による都市機能の低下など、地域を支える生業の再興に向けた対応が必要である。 ・過疎地域における、生活拠点の変化や避難生活の長期化、想定外の大災害への対応等に備え、集落・地域全体を含めた持続可能性を支える拠点づくりを行い、新たなまちへの再生に向けた対応が必要である。
将来ビジョン(中長期) ①輪島市復興まちづくり計画(令和6年度策定) 1. 被災者の生活再建 ・1-1 被災者に寄り添った生活支援と住まいの再建 ・1-2 日常生活を支える地域コミュニティの再建 ・1-3 子供・若者に向けた支援 2. 地域を支える生業の再興 ・2-1 地域の伝統文化や自然景観など観光資源の再興 ・2-2 農林水産業(里山里海)の再興 ・2-3 持続可能な地域経済の再興 3. 新たなまちへの再生 ・3-1 都市の将来像を念頭に置いた市街地の再生 ・3-2 地域の自立と持続可能性を支えるまちづくりの推進 ・3-3 防災力の向上と次世代への継承 ■復興に向けたシンボル・重点プロジェクト ・重点プロジェクト 「①魅力ある住まいと拠点づくりプロジェクト」 「②ひとと自然が育む子ども・子育て応援プロジェクト」 「③まちの活力を高める商店街・観光再興プロジェクト」 「④輪島塗をはじめとした伝統産業・伝統文化再興プロジェクト」 「⑤輪島の恵みを取り戻すみなと復興プロジェクト」

都市構造再編集 支援事業の計画
都市機能配置の考え方 ・市全域のゾーニングとして、「市街地ゾーン、集落ゾーン、自然環境ゾーン」を位置づけており、当地区は市街地ゾーン（地域拠点）に位置し、早期のインフラ復旧や公共インフラの強靱化の推進、安全・安心で多様な暮らしを選択できる住まいや住環境の整備、行政サービスをはじめ日常生活の利便性の高い市街地の再構築を図る。 ・当地区は、一定の人口密度を維持し、行政機能や生活利便機能を備える町野中心部の地域拠点に該当し、立地適正化計画における地域生活拠点に適した区域と捉えている。 ・「住まいの再建整備」、「伝統文化と新たな魅力が共存し、魅力と賑わいあふれる空間整備」を図る。 ・また、本市と周辺市町（能登町、珠洲市）や市内の都市拠点を結ぶ国道や主要地方道においては、都市連携軸として、広域的なネットワークや災害時の主要な幹線道路としての強靱化による、多様な機能の連携と広域的な交流を推進する。
都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ・地域拠点として、区域内に交流機能を備えた複合施設を整備し、耐震・耐水による安全安心の確保、維持管理等の効率化を図るとともに、町野支所などの既存公共施設等を核とした機能充実、施設利用者の利便性の向上を図る。
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等 災害公営住宅整備事業

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地域団体等の地域活動の回復	%	町野中心部の交流施設として再建する地域交流センターにおける、地域団体等の利用やイベント開催等による利用者	目標1について、被災者の生活再建を推進し、地域交流の場の復興によって日常の地域活動・コミュニティの回復・維持を図ることを、地域交流センターを利用した人数（団体利用、季節の地域イベント利用者）で評価する。	800	R4年度	2,000	R11年度
町野中心部における地価下落の抑制	%	町野中心部の基準地における地価の比較（固定資産税標準宅地価格の対評価替え前比）	目標1・2について、生活再建や観光の再興等の取り組みにより、町野中心部の安全で暮らしやすい魅力ある居住環境の構築等がもたらす、エリア価値の向上を地価の維持で評価する。 ※地価公示・地価調査価格がないため固定資産税評価額による（R6年度は0%と設定）	0.0%	R6年度	-1.5%	R11年度
町野中心部周辺の人口の維持・回復	%	都市再生整備計画区域を含む周辺地区（字）における人口の対令和2年度（2020年度）比率	目標3について、東部地域で大きく人口減少が想定される中、町野中心部では地域生活拠点として住宅再建・公営住宅整備や施設・機能集約等でまちの再生を図ることで、震災前将来人口推計（市全体）並の人口回復・維持することを評価する。 ※R2年度国勢調査人口に対する第2次輪島市総合計画のR12年独自推計値人口比率：82.7%を採用し、同割合人口を目標とする。（従前値はR6.4.1人口より）	88.9%	R6年度	82.7%	R11年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【方針1 被災者の生活支援と住まいの再建】 ・基盤整備、低未利用地活用や公営住宅用地等の確保による機能集約		【基幹事業】（高次都市施設）（仮）東部地域交流センター事業 【関連事業】（災害公営住宅整備事業）災害公営住宅整備事業
【方針2 防災力向上や市街地の再生】 ・伝統文化と新たな魅力が共存し、魅力と賑わいあふれる、憩い・待合い等のための滞留空間の整備 ・利便性向上のためのサービス機能集約や交流拠点にふさわしい新規機能導入（情報提供機能の充実等） ・消防署を中心とした防災拠点の整備		【基幹事業】（高次都市施設）（仮）東部地域交流センター事業※再掲 【基幹事業】（地域生活基盤施設）（仮）東部地域防災拠点事業（地域防災施設）
【方針3 みんなでつなぐ復興まちづくり計画】 ・復興事業実現に向けた検討や官民協働の取組の継続		【提案事業】（事業活用調査）東部地域復興まちづくり検討事業 【提案事業】（事業活用調査）事業効果分析・事後評価調査
その他		
【これまでの官民協働の取組】 ○わじま未来トーク（輪島市内3箇所で開催） ・輪島市復興まちづくり計画策定に向けて、住民参加型ワークショップの開催 市街地区【輪島市消防署】、西部地区【門前東小学校】、東部地区【町野小学校】 第1回：令和6年6月15～16日 第2回：令和6年8月10～11日 ○民間団体の活動状況 【朝市】輪島朝市の特徴を活かした施設整備構想 ・本町商店街振興組合、輪島朝市組合の若手メンバー等により、輪島朝市の特徴を活かした新たな構想を策定 令和6年8月9日検討会において、組合などに3つの復興案を提出し、輪島市復興まちづくり計画への反映 【輪島】輪島塗若手ネットワーク ・輪島塗の伝統産業衰退という課題解決を目指す （仮）輪島塗復興検討協議会の設立、復興計画の策定・実行、輪島市復興まちづくり計画との連携 等 【輪島】JC（一般社団法人 輪島青年会議所） ・持続可能なまちづくりに向け、青少年の育成とまちの活性を目指す 発災前から継続的に防災訓練や災害研修、ボランティア活動の実施 発災後は、ボランティアセンターの設置や物資供給・炊き出し活動、青少年向け事業等を行う 【門前】総持寺通り協同組合 ・「商店街再生 禅の里に再び元気を」 門前に住む人たちが楽しいと思える町づくりに向けた活動 令和6年2月14日 門前未来づくり振興会 発足 【町野】町野復興プロジェクト実行委員会 ・将来的な関係人口の拡大に向け、イベントだけでなく事業としてのまちづくりを目指す 令和6年2月設立 ○住民懇談会（輪島市内7箇所で開催）：令和6年8月17～29日及び11月2～10日		

様式(1)-④-1

「都市構造再編集集中支援事業」を活用の場合、本様式を使用すること

(金額の単位は百万円)

...A

...B

...C

合計(A+B+C)	1,223
-----------	-------

00

東部地域拠点地区(石川県輪島市)

面積	52.0	ha	区域	輪島市町野町広江元地三、町野町広江本町一、町野町広江上地二、町野町栗蔵、町野町井面、町野町地方の一部
----	------	----	----	--

